浜 岡 原 子 力 発 電 所 周 辺 環 境 放 射 能 調 査 結 果

第 172 号

調査期間 平成 28 年 10 月~平成 28 年 12 月

平成 29年 2月

静岡県環境放射能測定技術会

はじめに

静岡県においては、浜岡原子力発電所の安全確保等に関する協定に基づき、静岡県環境放射能測定技術会が「浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画」を策定し、昭和47年度から浜岡原子力発電所周辺の環境放射能調査を実施している。

この調査結果は、平成28年度第3四半期に各測定機関が実施した測定結果について、 静岡県環境放射能測定技術会が検討、評価した結果を取りまとめたものである。

Ι	調査結果のまとめ	1
II	調査概要	2
Ш	調査結果	
1	空間放射線量	4
	(1) 線量率	4
	ア 短期評価 (1時間平均値)	4
	イ 長期評価 (3ヶ月間平均値)	5
	(2) 積算線量	6
2	環境試料中の放射能	8
	(1) 全アルファ・全ベータ放射能	8
	(2) 核種分析	9
	ア 機器分析 (ガンマ線放出核種)	9
	イ 放射化学分析 (ストロンチウム-90)	12
	ウ トリチウム分析	13
参	考資料	15

I 調査結果のまとめ

平成 28 年度第 3 四半期(平成 28 年 10 月~12 月)の調査では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められなかった。

- 1 空間放射線量の測定結果
- (1) 線量率 (14 地点)
 - ア 短期評価 (1時間平均値)

新神子で平常の変動幅の下限を下回ったときがあったが、それ以外は全て平常の変動幅[※]の範囲内であった。

イ 長期評価 (3ヶ月間平均値)

新神子で平常の変動幅の下限を下回ったが、それ以外の地点は全て平常の変動幅の範囲 内であった。

(2) 積算線量 (57 地点)

2地点で平常の変動幅の上限を超過した。

- 2 環境試料中の放射能の測定結果
- (1) 浮遊塵の全アルファ・全ベータ放射能 (5 地点) 全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。
- (2) 核種分析

ア セシウムー134 及びセシウムー137

- ① 陸上試料(24地点)7地点で平常の変動幅の上限を超過した。
- ② 海洋試料(25地点) 1地点で平常の変動幅の上限を超過した。
- イ ストロンチウムー90 (4地点)

全ての地点で「検出されず」であった。

- ウ トリチウム
 - ① 大気中水分(4地点) 全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。
 - ② 陸水及び海水 (6 地点) 全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

3 評 価

一部の地点において人工放射性核種を検出し、平常の変動幅²⁰の上限を超過したが、浜岡原子力発電所内モニタの測定結果や測定系等の異常の有無、対照地点の測定結果などから総合的に判断し、浜岡原子力発電所の影響ではなく、東京電力㈱福島第一原子力発電所の事故(以下「東電事故」という。)や過去に行われた核爆発実験等による影響と評価した。

4 参 考

東電事故等により放出された人工放射性核種の影響について、第1四半期から第3四半期までの測定結果から平成28年度の外部被ばく及び内部被ばくによる実効線量を推定した。その結果、公衆の年線量限度1mSvよりも十分低く、健康への影響は心配ないレベルであった。※

- ※1 東電事故前の過去 10 年間 (測定期間が 10 年に満たない場合にあっては、測定開始から東電 事故が発生するまでの間) の最小値と最大値の範囲としている。詳細については、平成 26 年度環境放射能測定結果評価方法に記載している。
- ※2 実効線量の推定結果は参考資料Ⅱに示した。

Ⅱ 調査概要

1 目的

浜岡原子力発電所周辺の環境放射線及び環境放射能を調査する目的は、環境における原子力発電所に起因する放射性物質又は放射線による周辺住民等の線量が、年線量限度の 1mSv を十分に下回っていることを確認するとともに、万が一、原子力災害対策特別措置法に基づく異常事態等が発生した場合であっても、速やかに対応できるようモニタリング体制を整備しておくことにある。この目的は、具体的に次の4項目に要約される。

- (1) 周辺住民等の線量を推定し評価すること。
- (2) 環境における放射性物質の蓄積状況を把握すること。
- (3)原子力発電所からの予期しない放射性物質の放出を早期に検出し、周辺環境への影響を評価すること。
- (4) 異常事態等が発生した場合、平常時モニタリングを強化するとともに、緊急時 モニタリングを迅速に開始できるよう体制を整備すること。

2 測定機関

- (1) 静岡県環境放射線監視センター
- (2) 中部電力株式会社浜岡原子力発電所

3 調査期間

平成 28 年 10 月~平成 28 年 12 月

4 調查内容

(1)調查項目

ア 空間放射線量の測定

- ① 空間ガンマ線測定装置による線量率
- ② 蛍光ガラス線量計による積算線量

イ 環境試料中の放射能測定

- ① 全アルファ・全ベータ放射能測定
- ② 核種分析
- (2)調査の実施状況

調査対象ごとの調査の実施状況を表1~3に示す。

5 測定法

静岡県環境放射能測定技術会が定めた「環境放射能測定法」(平成 25 年 9 月改訂) による。

6 評価方法

静岡県環境放射能測定技術会が定めた「平成 28 年度環境放射能調査結果の評価 方法(平成 28 年 6 月)」による。

表1 空間放射線量

調査対象	地点数	調査期間		
線量率	14	亚市 20 年 10 日 。亚市 20 年 12 日		
積 算 線 量	57	平成 28 年 10 月~平成 28 年 12 月		

表 2 環境試料中の放射能 (陸上試料)

			全アルン	ファ・全ベータ			核	種 分 析		
訓	間査対	象	放	射能測定	ガン	/マ線放出核種	スト	ロンチウムー90	トリチウム	
			地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期
浮	遊塵	1), 2)	5	10~12 月 (連続測定)	5	10, 11, 12 月		_		_
大気	化中质	公分 ²⁾	_	_	_	_		_	4	10, 11, 12 月
K	降下物 ²⁾		_	_	1	10, 11, 12 月	_	_	_	_
	土井	襄	_	_	3	10 月	_	_	_	_
陸	上	水	_	_	2	12 月	_	_	1	12 月
水	井	水	—	_	1	12 月	—		_	
	玄	米	_	_	2	10 月	2	10 月	_	-
農畜	白	菜	_	_	3	11, 12 月	—		_	
農畜産物	み	かん	—	<u>—</u>	2	11月		_	_	
	原	乳	_		2	10 月	1	10 月		
指標	指標生物		_	_	3	12 月		_	_	_

注1) 浮遊塵の全アルファ・全ベータ放射能測定は、集塵中及び集塵終了6時間後に測定を行った。

表3 環境試料中の放射能(海洋試料)

			核 種 分 析							
	調査対象		ガン	マ線放出核種	ストロ	1ンチウムー90	1	トリチウム		
			地点数	調査時期	地点数	調査時期	地点数	調査時期		
	海	水	10	11月	_		5	11 月		
	海底土		10	11月	_		_			
海	しり	うす ¹⁾	1	未採取	1	未採取	-			
産	あ	<u>لّ</u> 2)	1	未採取	_		_			
生	かる	さご3)	1	未採取	1	未採取	—			
物	物いせえび		1	10 月	1	10 月				
特定	特定試料 海岸砂		4	10 月	_	_	_	<u> </u>		

注1) 10月に採取予定だったが、漁の都合により1月になった。

注2) 浮遊塵(核種分析)、大気中水分及び降下物は1カ月ごとに採取した。

注2) 11月に採取予定だったが、漁の都合により1月になった。

注3) 11月に採取予定だったが、不漁のため第3四半期内に採取できなかった。

Ⅲ 調査結果

1 空間放射線量

空間ガンマ線測定装置による線量率及び蛍光ガラス線量計による積算線量の測定結果を評価した。

(1)線量率

ア 短期評価(1時間平均値)

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺に設置した 14 箇所のモニタリングステーションに おける測定結果を表 4 に示す。

測定の結果、新神子で平常の変動幅の下限を下回ったときがあった。それ 以外は全て平常の変動幅の範囲内であった。

【評価結果】

新神子で平常の変動幅の下限を下回った原因は、測定装置の修繕*による影響に自然変動(自然放射性核種の変動)が加わったためと考えられる。

※ エネルギー分解能が悪化したため、平成28年1月に検出器の取替えを行った。

表4 線量率 (短期評価) の測定結果

単位:nGy/h

	<u></u>	/ -> MJ/C/III/	• •		1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
測定	地点名	測 定		平常の変動幅	震災後の変動幅
		最小値	最大値		
御前崎市	白 砂	37	67	37 ~ 95	37~89
	中町	53	80	47~94	52~103
	桜ケ池公民館	46	76	40~97	$45\sim 104^{2)}$
	上ノ原	45	78	40~98	$44\sim 102^{2)}$
	佐倉三区	38	71	37 ~ 91	$37\sim 96^{2)}$
	平場	37	68	36~96	36~88
	白羽小学校	45	78	40~94	44~92
牧之原市	地頭方小学校	41	68	37 ~ 90	$41\sim 100^{2)}$
御前崎市	旧監視センター	40	66	40~95	40~86
	草笛	41	72	40~97	40~104 (96) ³⁾
	新神子	<u>39</u>	69	40~105	40~94
	浜岡北小学校	41	74	40~94	$40{\sim}99^{2)}$
掛川市	大東支所	40	68	38~93	$39{\sim}94^{2)}$
菊川市	小笠支所	45	74	45 ~ 95	$45\sim 106^{2)}$

注1)下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

注 2) 上限値は東電事故の影響ではなく、自然変動によるものと評価している。(調査結果書第 164号)

注 3) ()内は、X 線を用いた非破壊検査が実施された時間帯 (平成 27 年 2 月 18 日 11 時~17 時、 2 月 19 日 9 時~12 時、3 月 23 日 13 時~18 時、3 月 24 日 8 時~18 時)の値を除いた場合の測定値。

イ 長期評価(3ヶ月間平均値)

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺に設置した 14 箇所のモニタリングステーションに おける測定結果を表 5 に示す。

測定の結果、新神子で平常の変動幅の下限を下回った。それ以外の地点は、全て平常の変動幅の範囲内であった。

【評価結果】

新神子で平常の変動幅の下限を下回った原因は、測定装置の修繕*による 影響に自然変動が加わったためと考えられる。

※ エネルギー分解能が悪化したため、平成28年1月に検出器の取替えを行った。

表 5 線量率 (長期評価) の測定結果

単位:nGy/h

	冰里十 (区別山		レルロント				平位.110y/11
			測	定	値 1)		平成 28 年度
地	点名	27 ⁴	手 度		28 年度		平常の変動幅
70	₩ 4			4 6 🗆		10 10 🗆	(震災後の
		10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	変動幅)
御前崎市	白砂	40	40	39	39	40	39~43
11 thu fill dal	н •/	10	10	0.0	0.0	10	(40~46)
	中町	57	57	57	57	57	51~57
							(55~57)
	桜ヶ池公民館	48	48	48	47	48	42~49
							$(47\sim50)$ $42\sim48$
	上ノ原	47	47	46	46	47	$42\sim48$ $(46\sim49)$
							39~41
	佐倉三区	40	40	40	39	40	$(39\sim41)$
							39~44
	平場	39	39	39	<u>38</u>	39	$(39\sim45)$
	3.11						43~48
	白羽小学校	48	47	47	46	47	$(47\sim49)$
44.1.1.1.	100===	4.4	4.4	40	40		39~44
牧之原市	地頭方小学校	44	44	43	43	44	$(43\sim 46)$
御前崎市	旧監視センター	44	42	42	4.1	42	42~50
14月11月11月11月11月11日	口監況ピングー	44	42	42	41	42	$(42\sim 48)$
	草 笛	44	44	43	43	44	41~52
	节 田	77	44	40	40	77	$(41\sim50)$
	新神子	43	42	41	41	41	42~50
	70/11/1	10	12	11			(42~49)
	浜岡北小学校	44	44	43	43	44	43~49
				10	1.0		(43~46)
掛川市	大東支所	42	42	41	41	42	41~47
							$(41\sim47)$
菊川市	小笠支所	48	48	48	47	48	$47\sim53$ $(47\sim51)$
							(47,~31)

注1)下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

(2) 積算線量

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺57地点と対照地点の4地点における積算線量の測定結果を表6に示す。

測定の結果、57地点中2地点で平常の変動幅の上限を超過した。

【評価結果】

周辺環境に変化はなく、浜岡原子力発電所内モニタの測定結果や測定系にも異常は認められなかったことから、平常の変動幅の上限を超過した原因は自然変動と考えられる。

表6 積算線量の測定結果

単位:mGy

ポイント番号	測定地点	測定値	直 2) 3)	平常の	震災後の	ポイント	測定地点	測定何	直 2) 3)	平常の	震災後の
番号	地点名 1)	(90 日書	奠算値)	変動幅	変動幅	ト 番 号	地点名 1)	(90 日	喚算値)	変動幅	変動幅
1	御前崎市 西上ノ原	0.	13	0.12~0.14	0.13~0.14	45	御前崎市 平 場	0.	14	0.12~0.15	0.14~0.15
2	上ノ原岩根	0.	15	0.14~0.16	0.14~0.16	46	海 山*	0.15	0.14	0.13~0.15	0.14~0.15
3	玄 保	0.	14	0.13~0.14	0.13~0.15	47	本町公民館*	0.14	0. 14	0.12~0.15	0.13~0.15
4	洗井	0.	13	0.12~0.13	0.13~0.14	48	有ヶ谷	0.	15	0.13~0.15	0.14~0.15
17	上比木	0.	16	0.14~0.16	0.15~0.16	49	朝比奈原公民館*	0.14	0.14	0.12~0.14	0.13~0.15
18	三間	0.	15	0.13~0.15	0.14~0.15	5	借 宿*	0.14	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15
19	名 波*	0. 15	0.15	0.14~0.16	0.15~0.16	6	中 西	0.	14	0.13~0.14	0.13~0.15
21	宮内	0.	15	0.14~0.15	0.14~0.16	7	白羽小学校	0.	14	0.13~0.15	0.13~0.15
22	中 田	0.	17	0.15~0.17	0.15~0.17	8	薄原前*	0.14	<u>0. 15</u>	0.13~0.14	0.14~0.15
23	旧朝比奈小学校*	0. 15	0. 15	0.14~0.15	0.14~0.16	9	広 沢	0.	13	0.12~0.13	0.12~0.14
24	下朝比奈	0.	15	0.13~0.15	0.13~0.15	10	芹沢	<u>0.</u>	<u>15</u>	0.13~0.14	0.13~0.15
25	木ヶ谷	0.	14	0.13~0.15	0.13~0.15	11	西 山*	0.14	0. 15	0.13~0.15	0.14~0.16
26	蒲 池	0.	14	0.13~0.14	0.13~0.14	12	遠代	0.	13	0.12~0.14	0.12~0.14
27	塩原新田	0.	15	0.13~0.15	0.14~0.16	13	牧之原市 堀野新田*	0.13	0. 13	0.12~0.13	0.12~0.14
28	合戸東前	0.	15	0.14~0.15	0.14~0.15	14	地頭方天白	0.	13	0.12~0.14	0.12~0.14
29	七ツ山	0.	14	0.13~0.14	0.13~0.15	15	地頭方小学校*	0.14	0. 15	0.13~0.15	0.14~0.16
30	落合	0.	14	0. 13~0. 15	0.13~0.16	16	旧地頭方中学校	0.	15	0.14~0.15	0.14~0.16
31	八千代	0.	14	0.13~0.14	0.13~0.15	20	笠 名	0.	15	0.14~0.16	0.14~0.16
32	し尿処理場	0.	14	0. 13~0. 15	0.13~0.15	50	菅山保育園	0.	13	0. 13~0. 15	0.14~0.16
33	西佐倉	0.	14	0. 13~0. 15	0.14~0.15	51	鬼女新田公民館*	0.14	0.14	0.12~0.14	0.13~0.15
34	桜ヶ池*	0.14	0.14	0.12~0.14	0.13~0.15	52	相良庁舎*	0. 15	0. 14	0.13~0.15	0.13~0.15
35	中 町*	0. 16	0.16	0.14~0.16	0.14~0.17	53	掛 川 市 千浜小学校*	0. 15	0. 15	0.14~0.15	0.15~0.16
36	桜ヶ池公民館	0.	15	0.13~0.15	0.14~0.15	54	大東支所	0.	15	0. 13~0. 15	0.14~0.15
58	第6分団*	0. 15	0.15	0.14~0.15	0.14~0.16	55	菊川市南山駐在所*	0.14	0.14	0.13~0.14	0.13~0.15
38	上ノ原	0.	13	0.12~0.14	0.12~0.14	56	小笠支所	0.	14	0. 13~0. 15	0.14~0.15
39	上ノ原平場前	0.	14	0.13~0.15	0.13~0.15	57	東小学校	0.	14	0.13~0.15	0.14~0.15
40	合戸西前	0.	13	0. 12~0. 15	0.13~0.14		下田市中*	0.12	0.13	0.12~0.13	0.12~0.14
41	合戸池田	0.	15	0. 13~0. 15	0.14~0.15	対	沼津市高島本町*	0.11	0.12	0.11~0.12	0.11~0.13
42	門屋石田*	0. 15	0.15	0.13~0.15	0.15~0.16	照地点	静 岡 市 北安東*	0. 15	0. 16	0.15~0.17	0.15~0.17
43	中 尾	0.	17	0.15~0.18	0.16~0.18	从	浜 松 市 下池川町*	0.12	0. 13	0.12~0.13	0.12~0.13
44	白 砂	0.	13	0. 12~0. 18	0.13~0.14						

注1) 「*」が付記された地点は、県及び中電の両機関が測定を実施し、それ以外の地点は中電が測定を実施した。

注2) 県及び中電の両機関が測定した地点は、左欄に県、右欄に中電の測定値を記載した。

注3) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

2 環境試料中の放射能

全アルファ・全ベータ放射能及び核種分析の測定結果を評価した。

なお、測定結果に記載の「検出されず」と「検出限界未満」については、解説資料において詳細を説明している。

(1) 全アルファ・全ベータ放射能

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺の14箇所のモニタリングステーションのうち、5箇所に設置したダストモニタによる測定結果を表7に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表7 全アルファ・全ベータ放射能(浮遊塵)の測定結果

① 集塵中の全アルファ・全ベータ放射能比

単位:一

Life	⊢	H	測定値		平常の変動幅	最似める変利は	
地	点	名	最小値	最大値	千吊の変動幅	震災後の変動幅	
御前崎市	白	砂	* 1)	4. 4	* ∼9. 2	* ∼17	
	中	町	*	3.0	* ∼9.1	* ∼7.5	
	平	場	*	3. 2	* ∼7.3	* ∼21	
	白羽小学校		*	3.0	* ∼5.6	* ∼6.8	
牧之原市	地頭	j 方小学校	*	3. 2	* ∼7.2	* ∼7.3	

注1)「*」は、「LTD:検出限界未満」を示す。

② 集塵中の全ベータ放射能

単位:Bq/m³

Life	. 1+	Ħ	測	官 値	平常の変動幅	電巛巛の亦利帽	
地点		名	最小値	最大値	干吊の変動幅	震災後の変動幅	
御前崎市	白	砂	* 1)	10	* ∼22	* ∼19	
	中	町	*	9. 2	*~20	* ∼8.6	
	平	場	*	8. 2	* ∼16	* ∼16	
	白羽小学校		*	7. 2	* ∼16	* ∼7.9	
牧之原市	地頭	i方小学校	*	8. 1	* ∼18	* ∼7.3	

注1)「*」は、「LTD:検出限界未満」を示す。

③ 集塵終了6時間後の全ベータ放射能

単位:Bq/m³

lile	⊢	Ħ	測気	官 値	平常の変動幅	長巛公の亦私垣	
地	点	名	最小値	最大値	十市の変動幅	震災後の変動幅	
御前崎市	白	砂	* ¹⁾	0. 22	* ∼0.40	* ∼5.6	
	中	町	*	0. 19	* ∼0.37	* ∼3.9	
	平	場	*	0.14	* ∼0.28	* ∼0.77	
	白羽小学校		*	0. 096	* ∼0.15	* ∼3.9	
牧之原市	地頭	j 方小学校	*	0. 24	* ∼0.27	* ∼4.2	

注1)「*」は、「LTD:検出限界未満」を示す。

(2) 核種分析

ア 機器分析 (ガンマ線放出核種)

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺 49 地点及び松葉の対照 1 地点について、機器分析による測定結果を表 8 - 1 \sim 8 - 2 に示す。

測定の結果、以下の試料でセシウム-134、セシウム-137の両方又はどちらか一方が平常の変動幅の上限を超過した。

① 陸上試料 (7/24 地点)

浮遊塵 (1/5 地点)、土壌 (3/3 地点)、みかん (1/2 地点)、原乳 (1/2 地点)、 松葉 (1/3 地点)

② 海洋試料 (1/25 地点) いせえび (1/1 地点)

【評価結果】

浜岡原子力発電所内モニタの測定結果や前処理、測定などに異常は認められないことから、平常の変動幅の上限を超過した原因は、セシウム-134については東電事故の影響、セシウム-137については過去の核爆発実験等の影響に東電事故の影響が加わったことによるものと考えられる。

表8-1 機器分析(ガンマ線放出核種)の測定結果

	衣 ○ □ 1	<u> </u>		以山汐性)()	18175	T		
	試料名	地点数	浿	川定値	平常の変動幅	震災後の変動幅	単位	
			¹³⁴ Cs:	* ¹⁾	*	* ∼7.78		
	浮遊塵	5	¹³⁷ Cs:	$*\sim 0.011^{2)}$	*	* ∼8. 21	${ m mBq/m^3}$	
			その他 ³⁾ :	*	*	*	_	
			¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼617		
	降下物	1	¹³⁷ Cs:	* ∼0. 067	* ~ 0. 12	0.061~611	$\mathrm{Bq/m^2}$	
			その他:	*	*	*		
			¹³⁴ Cs:	*	*	*		
	上 水	2	¹³⁷ Cs:	*	*	*		
陸			その他:	*	*	*	D /I	
水	水井水		¹³⁴ Cs:	*	*	*	mBq/L	
		1	¹³⁷ Cs:	*	*	*		
			その他:	*	*	*		
			¹³⁴ Cs:	* ∼2.1	*	* ∼21.6		
	土壌	3	¹³⁷ Cs:	$9.4 \sim 12.0$	1.7~10.0	3.8~28.4	Bq/kg 乾土	
			その他:	*	*	*		
		2	¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼21.6		
	玄 米		¹³⁷ Cs:	*	*	3.8~28.4		
			その他:	*	*	*		
		菜 3	¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼0. 036		
農	白 菜		¹³⁷ Cs:	* ∼0. 011	* ∼0. 024	* ∼0. 055		
畜			その他:	*	*	*	Bq/kg 生	
			¹³⁴ Cs:	* ∼0. 012	*	* ∼0. 96		
産	みかん	2	¹³⁷ Cs:	$0.015 \sim 0.050$	* ∼0. 019	0.016~1.14		
物			その他:	*	*	*		
170			¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼0. 43		
	压 剑	0	¹³⁷ Cs:	* ∼ <u>0.033</u>	* ∼0. 029	* ∼0. 45		
	原 乳	2	¹³¹ I:	*	*	* ∼0.14	Bq/L	
			その他:	*	*	*	Bq/kg 生	
			¹³⁴ Cs:	*∼ <u>0.060</u>	*	* ∼41.1		
	松葉	3	¹³⁷ Cs:	0. 092~ <u>0. 37</u>	* ∼0. 22	0.064~44.3		
指	仏 朱	3	¹³¹ I:	*	*	*		
標	疳 標		その他:	*	*	*	D /L #	
指標生			¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼60.9	Bq/kg 生	
物	松葉	1	¹³⁷ Cs:	0.030~0.039	* ∼0.10	0.045~69.4		
	(対照地点)	1	¹³¹ I:	*	*	*		
			その他:	*	*	*		
20.4) [* 17 [MD	IA III Sa Ta				•		

注1) 「*」は「ND:検出されず」を示す。

注2) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

注3) その他は、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137 以外の対象核種で、詳細は環境放射能測定法に記載している。

表8-2 機器分析(ガンマ線放出核種)の測定結果

		1	1					
	試料名	地点数	測定値		平常の変動幅	震災後の変動幅	単位	
			¹³⁴ Cs:	* 1)	*	* ∼4.5		
	海水	10	¹³⁷ Cs:	* ∼3.1	* ∼4.1	* ∼6.1	mBq/L	
			その他 ²⁾ :	*	*	*		
			¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼0. 47		
	海底土	9	¹³⁷ Cs:	*	* ∼1.2	* ∼1.1		
			その他:	*	*	*	Da/lea 故上	
			¹³⁴ Cs:	*	*	* ∼1.6	Bq/kg 乾土	
	海底土 3)	1	¹³⁷ Cs:	* ∼2.0	* ∼2. 7	1.5~3.1		
			その他:	*	*	*		
		未採取	¹³⁴ Cs:	_	*	* ∼0. 21		
	しらす 4)		¹³⁷ Cs:	-	* ∼0.071	* ~ 0. 21		
			その他:	-	*	*		
		未採取	¹³⁴ Cs:	_	*	* ∼0. 21		
海	あじ5)		¹³⁷ Cs:	-	0.10~0.23	0.11~0.39		
海産生物			その他:		*	*	D a /1- a /1-	
生			¹³⁴ Cs:	_	*	* ∼0. 25	Bq/kg 生	
物	かさご 6)	未採取	¹³⁷ Cs:	-	0.072~0.14	0.13~0.36		
			その他:		*	*		
			¹³⁴ Cs:	$*\sim_{\underline{0.026}^{7)}}$	*	* ∼0. 49		
	いせえび	1	¹³⁷ Cs:	0. 081∼ <u>0. 10</u>	0.047~0.098	0.070~0.65		
			その他:	*	*	*		
特定試料			¹³⁴ Cs:	*	*	*		
定試	海岸砂	4	¹³⁷ Cs:	*	*	* ∼0.94	Bq/kg 乾土	
料			その他:	*	*	*		

- 注1) 「*」は「ND:検出されず」を示す。
- 注2) その他は、ヨウ素-131、セシウム-134、セシウム-137以外の対象核種で、詳細は環境放射能測定法に記載している。
- 注3) 採取場所は御前崎港(内海)であり、他の採取地点(外海)と環境が異なるため、平常の変動幅を区別して定めている。
- 注4) 10月に採取予定だったが、漁の都合により1月採取となった。
- 注5) 11月に採取予定だったが、漁の都合により1月採取となった。
- 注6) 11月に採取予定だったが、不漁のため第3四半期内に採取できなかった。
- 注7) 下線は平常の変動幅を外れた値であることを示す。

イ 放射化学分析 (ストロンチウム-90)

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺4地点について、放射化学分析による測定結果を表9に示す。

測定の結果、全ての地点で「検出されず」であった。

表 9 放射化学分析 (ストロンチウム-90) の測定結果 ¹⁾ 単位: Bq/kg 生

					_
試料名		地点数	測定値	平常の変動幅	震災後の変動幅
農畜産物	玄米	2	* 1)	*	*
	原乳	1	*	* ∼0. 022	* ∼0.016
海産生物	しらす²)	未採取	_	*	*
	かさご³)	未採取		*	*
	いせえび	1	*	*	*

注1) 「*」は「ND:検出されず」を示す。

注2) 10月に採取予定だったが、漁の都合により1月採取となった。

注3) 11月に採取予定だったが、不漁のため第3四半期内に採取できなかった。

ウ トリチウム分析

① 大気中水分

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺4地点及び対照1地点について、トリチウム分析による測定結果を表10に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表10 大気中水分トリチウムの測定結果 単位:捕集水は Bq/L、空気は Bq/m³

地点名	地点数	試料名	測定値	平常の変動幅	震災後の変動幅
浜岡原子力	1	捕集水 1)	* ²⁾ ~0.66	*~2.1	*~1.4
発電所周辺	4	空 気 ³⁾	* ∼0. 0062	* ∼0.017	* ∼0. 019
热丽古 4)	司市 ⁴⁾ 1	捕集水	* ∼0.33	* ∼1.6	* ∼2.0
月井 山川 1		空 気	* ∼0. 0015	* ∼0.011	* ∼0. 028

- 注1) 大気中の水分に含まれるトリチウムの測定結果である。
- 注2) 「*」は「ND:検出されず」を示す。
- 注3) 空気中トリチウム濃度は、捕集水中トリチウム濃度から求めたものである。
- 注4) 対照地点であり、測定は県が実施した。

② 陸水及び海水

【測定結果】

浜岡原子力発電所周辺6地点の陸水及び海水について、トリチウム分析による測定結果を表11に示す。

測定の結果、全ての地点で平常の変動幅の範囲内であった。

表11 トリチウムの測定結果

単位:Bq/L

試 料 名		地点数	測定値	平常の変動幅	震災後の変動幅
陸水	上水	1	* ∼0. 55	* ∼0.91	* ∼0.82
海	水	5	* ∼0.70	* ∼0.88	* ∼0.81

注1) 「*」は「ND:検出されず」を示す。

参考資料

I	測定データ資料	17
	1 空間放射線量	17
	(1)線量率	17
	(2) モニタリングステーションの線量率(1ヶ月平均値)の推移	18
	(3) 線量率と降雨量の時系列グラフ	20
	(4) 積算線量	24
	2 環境試料中の放射能	25
	(1) 全アルファ・全ベータ放射能	25
	(2) 核種分析	26
	ア 機器分析(ガンマ線放出核種)	26
	イ 放射化学分析(ストロンチウム-90)	32
	ウ トリチウム分析	33
	付表-1 測定器	
	付表-2 日本における環境試料中のカリウム-40	
Π	東京電力㈱福島第一原子力発電所事故及び核爆発実験等の影響について …	35
ш	来求电力附值面另一床 1 万光电灯争吸及UV及像光天概等VPS 音に DV·C	55
Ш	************************************	
	の上限超過について(中部電力株式会社)	38
IV	平成 28 年度第 4 四半期浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定結果速報	
1 V	(静岡県環境放射線監視センター及び中部電力㈱浜岡原子力発電所) ·····	41
	(静岡県泉境成別隊監視とフター及び中印电力隊展画原士力先电別)	41
V	平成 28 年度浜岡原子力発電所周辺環境放射能測定計画	49
VI	平成 28 年度環境放射能調査結果の評価方法	62
٧ı	十0人20 千度垛克放剂 化侧重相木切计侧力伝	02
VII	浜岡原子力発電所の運転状況等(中部電力株式会社)	76
VIII	近岡原乙力及電話内エータ測学は甲(中郊電力歴ポクサ)	78
۷Ш	浜岡原子力発電所内モニタ測定結果(中部電力株式会社)	10

I 測定データ資料

1 空間放射線量

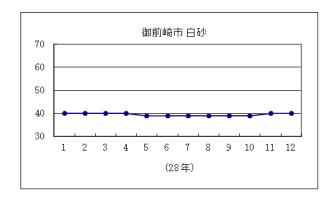
(1) 線量率

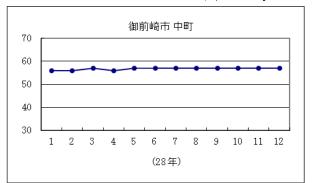
単位:nGy/h

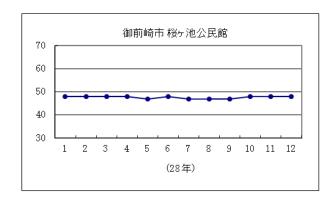
	测学业大友	п	短期評価		長期評価
	測定地点名	月	最小値	最大値	3ヶ月平均値
		10 月	37	61	
御前崎市	白 砂	11月	38	67	40
		12 月	38	57	
		10 月	56	76	
	中町	11月	53	80	57
		12 月	55	72	
		10 月	46	73	
	桜ケ池公民館	11月	46	76	48
		12 月	46	65	
		10 月	45	72	
	上ノ原	11月	45	78	47
		12 月	45	65	
		10 月	38	69	
	佐倉三区	11月	38	71	40
		12 月	38	59	
		10月	37	62	
	平場	11月	37	68	39
		12 月	37	57	
		10 月	45	78	
	白羽小学校	11 月	45	68	47
		12 月	45	66	
	地頭方小学校	10月	41	67	
牧之原市		11月	42	68	44
		12 月	42	62	
		10月	40	62	
御前崎市	旧監視センター	11月	41	66	42
		12月	40	57	
		10月	41	66	
	草 笛	11月	42	72	44
	, –	12月	42	61	
		10月	39	67	
	新神子	11月	39	69	41
		12月	39	60	
		10月	41	70	
	浜岡北小学校	11月	42	74	44
		12月	42	61	- -
		10月	40	64	
掛川市	大東支所	11月	40	68	42
		12月	40	59	
		10月	45	67	
菊川市	小笠支所	11月	46	74	48
×13/ 1-17	· ····/ · · // · /	12月	46	65	10

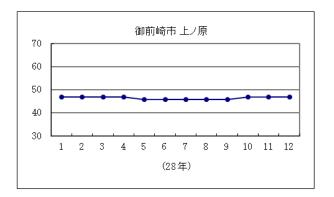
(2) モニタリングステーションの線量率(1ヶ月平均値)の推移

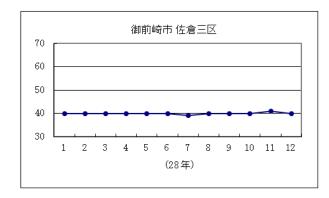
単位 nGy/h

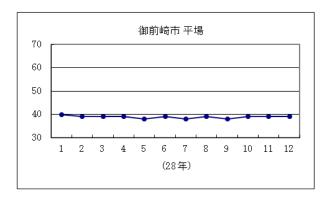


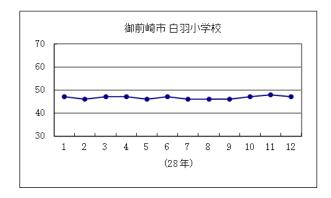


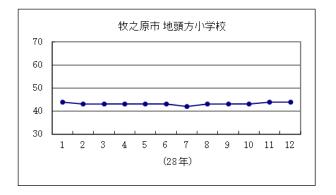




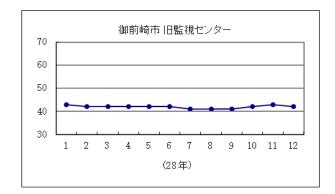


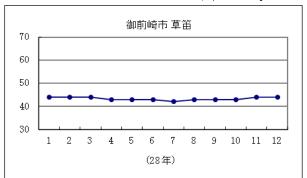


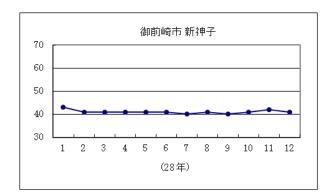


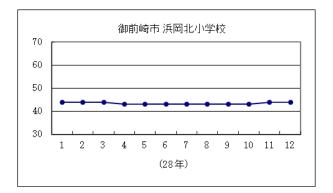


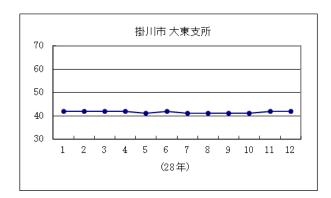
単位:nGy/h

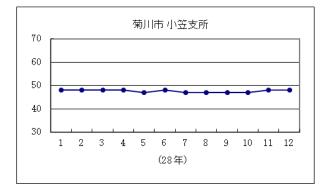






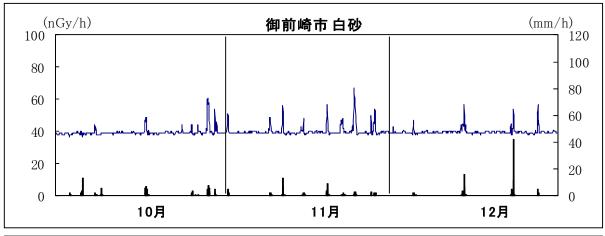


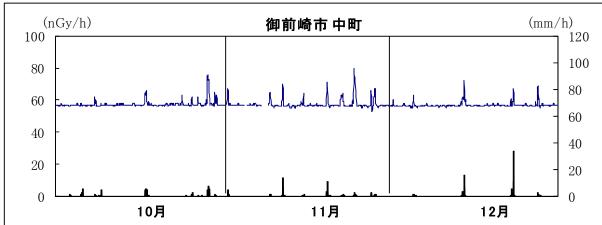


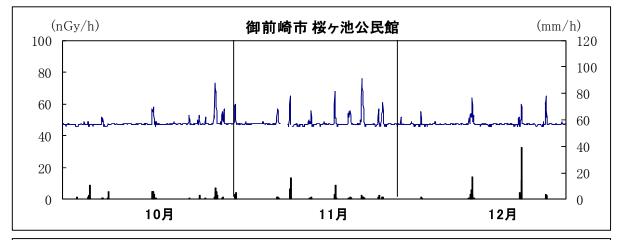


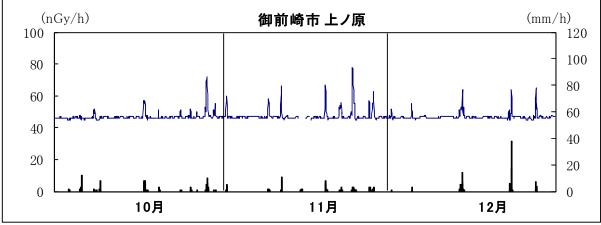
(3) 線量率と降雨量の時系列グラフ

(注) 降雨が無い場合に線量率の上昇が見られているものは特に断りのない限り「感雨」が観測されている。

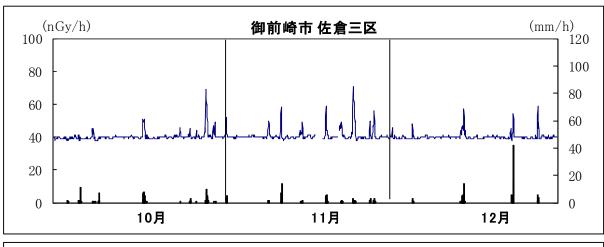


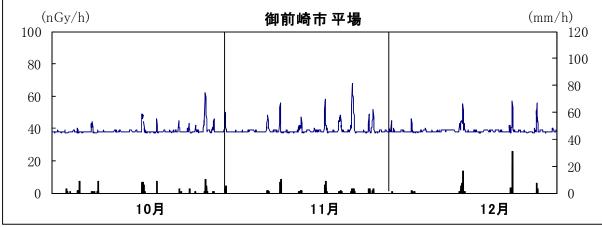


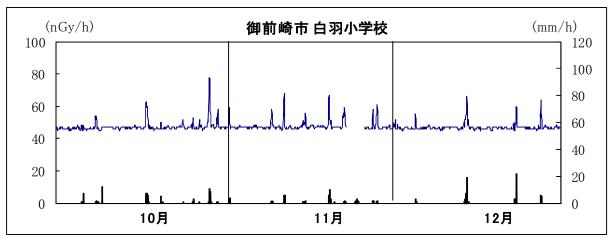


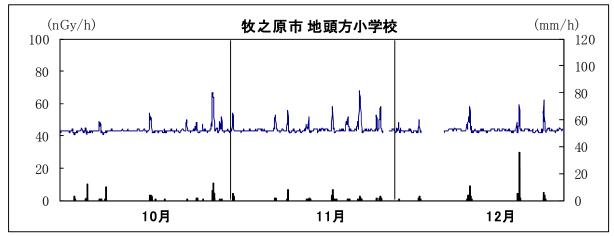


※上線は線量率,下線は降雨量

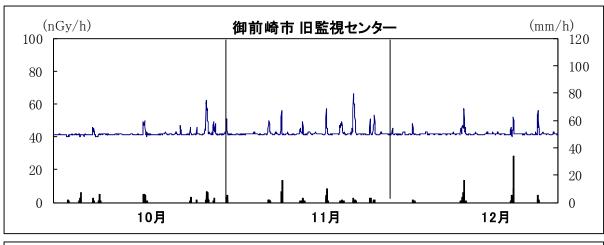


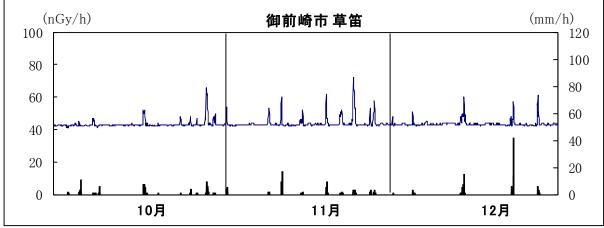


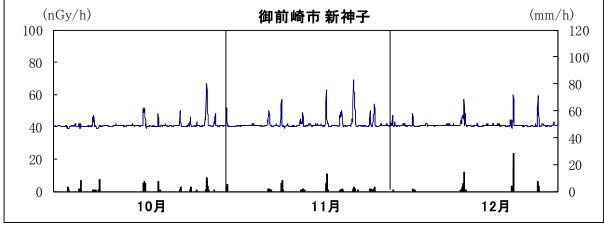


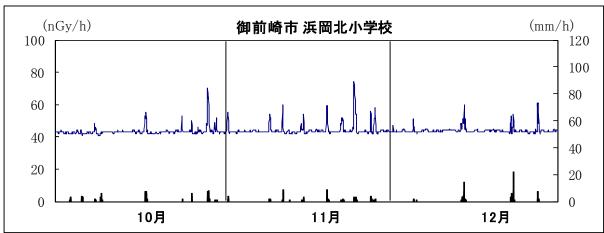


※上線は線量率,下線は降雨量

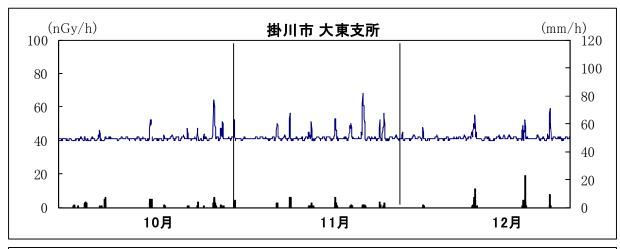


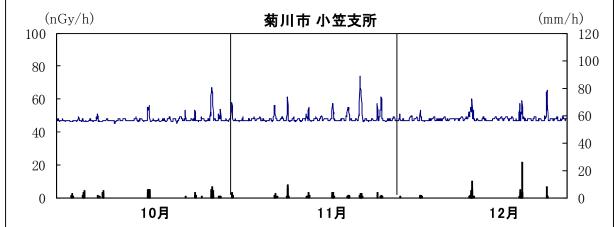






※上線は線量率,下線は降雨量





※上線は線量率,下線は降雨量

(4) 積算線量 測定期間:平成28年9月14日~12月14日(92日積算)

単位:mGy

						干型	· mo y
ポイン	測定地点	測定地点 測定値		ポイン	測定地点	測定値	
ト番号	地点名	県	中電	ト番号	地点名	県	中電
1	御前崎市 西上ノ原		0.14	45	御前崎市 平場		0. 15
2	上ノ原岩根		0.15	46	海山	0.15	0.15
3	玄保		0.14	47	本町公民館	0.15	0.15
4	洗井		0.14	48	有ヶ谷		0.15
17	上比木		0.16	49	朝比奈原公民館	0.15	0.14
18	三間		0.15	5	借宿	0.14	0.14
19	名 波	0.15	0.16	6	中西		0.14
21	宮 内		0. 15	7	白羽小学校		0.15
22	中田		0. 17	8	薄原前	0.14	0.15
23	旧朝比奈小学校	0. 15	0. 15	9	広 沢		0. 13
24	下朝比奈		0. 15	10	芹 沢		0. 15
25	木ヶ谷		0. 15	11	西山	0.15	0. 15
26	蒲 池		0.14	12	遠代		0. 13
27	塩原新田		0. 15	13	牧之原市 堀野新田	0.13	0. 13
28	合戸東前		0. 15	14	地頭方天白		0. 13
29	七ツ山		0.14	15	地頭方小学校	0.15	0.15
30	落 合		0.14	16	旧地頭方中学校		0. 15
31	八千代		0.14	20	笠 名		0.16
32	し尿処理場		0.14	50	菅山保育園		0.14
33	西佐倉		0. 15	51	鬼女新田公民館	0.15	0.15
34	桜ヶ池	0.14	0.14	52	相良庁舎	0.15	0.15
35	中町	0.16	0.16	53	掛川市 千浜小学校	0.16	0.16
36	桜ヶ池公民館		0.15	54	大東支所		0.15
58	第6分団	0. 15	0. 15	55	菊川市 南山駐在所	0.14	0.14
38	上ノ原		0.13	56	小笠支所		0. 15
39	上ノ原平場前		0.14	57	東小学校		0. 15
40	合戸西前		0.13	الجال	下田市 中	0.12	0.13
41	合戸池田		0. 15	対照	沼津市 高島本町	0.12	0.12
42	門屋石田	0. 15	0. 15	地点	静岡市 北安東	0.16	0. 17
43	中 尾		0.17	\777	浜松市 下池川町	0.12	0.13
44	白砂		0. 13				

2 環境試料中の放射能

(1) 全アルファ・全ベータ放射能 (浮遊塵)

① 集塵中全アルファ・全ベータ放射能比

単位:一

測定地点名	В	測定値		
例 足 型 点 行	Д	最小値	最大値	
御前崎市	10 月	*1)	4. 4	
白砂	11月	2. 5	3. 3	
	12 月	2.6	3. 3	
知光成士	10 月	*	3. 0	
御前崎市 中町	11 月	2. 2	2. 9	
十山	12 月	2.3	3. 0	
御前崎市	10 月	*	3. 2	
平場	11 月	2.4	3. 2	
十場	12 月	2. 3	3. 1	

測定地点名	п	測定値		
側	月	最小値	最大値	
公司	10 月	*	3. 0	
御前崎市 白羽小学校	11月	2.3	2.9	
口初小子仪	12 月	2.3	3. 0	
***	10 月	*	3. 1	
牧之原市 地頭方小学校	11月	2.3	3. 2	
地與刀小子仪	12 月	2. 3	3. 2	

② 集塵中の全ベータ放射能

単位:Bq/m³

測定地点名	月	測定値			
例足地点有	Л	最小値	最大値		
御前崎市	10 月	*1)	10		
白砂	11月	0. 70	9. 4		
日郊 	12 月	0. 27	9.8		
御前崎市	10 月	*	8. 3		
中町	11 月	0. 70	8. 3		
一	12 月	0. 26	9. 2		
御前崎市平場	10 月	*	8. 2		
	11 月	0. 57	6. 7		
十场	12 月	0. 28	6. 4		
\(\frac{1}{2}\) \(\frac{1}2\) \(\frac{1}{2}\) \(\frac{1}2\) \(\frac{1}2\) \(\frac{1}2\) \(\frac{1}2\) \(\frac\					

测学地卡克	П	測定値		
測定地点名	月	最小値	最大値	
/rn 	10 月	*	7. 2	
御前崎市 白羽小学校	11月	0. 52	5. 6	
口初小子仪	12 月	0.25	6. 2	
₩~ → 四 →	10 月	*	7. 4	
牧之原市 地頭方小学校	11月	0.61	6. 5	
地與刀爪子仅	12 月	0. 26	8. 1	

注1)「*」は、「LTD:検出限界未満」を表す。

③ 集塵終了6時間後の全ベータ放射能

単位・Ba/m³

測定地点名	н	測定値		
例足地尽有	Л	最小値	最大値	
御前崎市	10 月	*1)	0.20	
白砂	11月	*	0.18	
	12 月	*	0. 22	
御前崎市	10 月	*	0. 17	
中町	11 月	*	0. 13	
十二二	12 月	*	0. 19	
御前崎市 平場	10 月	*	0. 12	
	11 月	*	0.11	
十场	12 月	*	0. 14	

 測定地点名		測定値				
例 足地	Л	最小値	最大値			
佐田子子小太一十	10 月	*	0.096			
御前崎市 白羽小学校	11月	*	0.077			
日初小子仪	12 月	*	0.088			
# F	10 月	*	0. 18			
牧之原市 地頭方小学校	11月	*	0. 15			
地與刀小子仪	12 月	*	0. 24			

注1) 「*」は、「LTD: 検出限界未満」を表す。

注1)「*」は、「LTD: 検出限界未満」を表す。

(2) 核種分析

ア 機器分析 (ガンマ線放出核種)

浮遊塵

単位:mBq/m³

採取地点名	採取期間	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	* 1)	*	*	*	*	*	*	*
白砂	28年11月1日~28年11月30日	*	*	*	*	*	*	*	*
	28年12月1日~29年1月3日	*	*	*	*	*	*	*	*
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	*	*	*	*	*	*	*	*
中町	28年11月1日~28年11月30日	*	*	*	*	*	*	*	*
十 町	28年12月1日~29年1月3日	*	*	*	*	*	*	*	*
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	*	*	*	*	*	*	0.011	*
	28年11月1日~28年11月30日	*	*	*	*	*	*	*	*
平場	28年12月1日~29年1月3日	*	*	*	*	*	*	*	*
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	*	*	*	*	*	*	*	*
白羽小学校	28年11月1日~28年11月30日	*	*	*	*	*	*	*	*
日初小子仪	28年12月1日~29年1月3日	*	*	*	*	*	*	*	*
牧之原市	28年10月3日~28年10月31日	*	*	*	*	*	*	*	*
	28年11月1日~28年11月30日	*	*	*	*	*	*	*	*
地頭方小学校	28年12月1日~29年1月3日	*	*	*	*	*	*	*	*

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

② 降下物

単位:Bq/m²

採取地点名	採取期間	測定機関	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce
	28年 10月 3日	県	* 1)	*	*	*	*	*	*	*
	~28年 10月 31日	中電	*	*	*	*	*	*	0.063	*
御前崎市	28年 11月 1日	県	*	*	*	*	*	*	0.058	*
池新田	~28年 11月 30日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
	28年 12月 1日	県	*	*	*	*	*	*	*	*
	~29年1月3日	中電	*	*	*	*	*	*	0.067	*

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

③ 陸 水 単位:mBq/L

試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	^{5 4} M n	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ N b	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	⁴⁰ K ²⁾
	御前崎市 市役所	「崎市 市役所」。。 F 10 F 0 F		* 1)	*	*	*	*	*	*	*	*
上	(大井川広域水道)	28年12月9日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	17
水	御前崎市 新神子 (県営榛南水道及び大 井川広域水道混合水)	28年12月9日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	20
井水	御前崎市 塩原新田	28年12月9日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	85

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

注 2) 40K は、自然放射性核種である。

④ 土壌

単位:Bq/kg 乾土

試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	^{5 4} M n	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	^{9 5} N b	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	$^{40}{ m K}^{2)}$
	御前崎市	00 5 10 5 1 5	県	* 1)	*	*	*	*	*	10.1	*	560
	下朝比奈	28年10月4日	中電	*	*	*	*	*	*	9.4	*	521
土	御前崎市	00 5 10 5 4 5	県	*	*	*	*	*	1.8	10.4	*	525
壌	新神子	28年10月4日	中電	*	*	*	*	*	2.0	11.8	*	487
	牧之原市	00 5 10 0 0 0	県	*	*	*	*	*	2. 1	11.2	*	670
	笠 名	28年10月6日	中電	*	*	*	*	*	2. 1	12.0	*	600

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

注 2) 40K は、自然放射性核種である。

⑤ 農畜産物

単位: Bq/kg 生 ⁹⁵Zr ¹³⁷Cs ¹⁴⁴Ce $^{5~4}\,\mathrm{M}\,\mathrm{n}$ ⁶⁰Co ^{9 5} N b ¹³⁴Cs 40 K $^{3)}$ 試料名 採取地点名 測定機関 ⁵⁹Fe 採取年月日 $*^{1)}$ 県 * * * * * * 御前崎市 * 71.7 28年10月4日 玄 下朝比奈 中電 72.0 * * * * * * * * 米 牧之原市 中電 * * * * 28年10月6日 * * * * 66.5 地頭方 御前崎市 28年12月9日 中電 * * * * * * * * 66.5 雨垂 白 県 * * * * * * 0.011 * 58.3 御前崎市 28年11月28日 中電 * * * * * * * * 56. 7 上ノ原 菜 牧之原市 28年12月8日 中電 * * * * * 67.9 笠名 県 * * * * * * 33.3 0.015 御前崎市 4 28年11月8日 中電 * * * * * * 0.018 * 33. 3 上ノ原 カン * 県 * * * * 0.0071 0.050 * 35. 7 牧之原市 W 28年11月16日 堀野新田 中電 * * * * * 0.012 0.037 * 35.9 $*^{2)}$ 県 * * * * * * 0.020 * 46.3 菊川市 28年10月3日 原 嶺田 中電 * *** * ** ** 46.0 県 * * * * * * 0.033 * * 47.5 掛川市 乳 28年10月13日 下土方 中電 * * * * 0.031 * *44.2

- 注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。
- 原乳の ¹³¹I の単位は、Bq/L である。 注 2)
- 注3) 40Kは、自然放射性核種である。

(6) 指標生物

単位:Bq/kg 生

試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	^{5 4} M n	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	^{9 5} N b	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	$^{131}{ m I}$	$^{40}{ m K}^{2)}$
	御前崎市 池新田	28年12月8日	中電	* 1)	*	*	*	*	0.060	0.37	*	*	71. 1
松	御前崎市	90年19日 9日	県	*	*	*	*	*	*	0. 100	*	*	75. 1
	平場前	28年12月8日	中電	*	*	*	*	*	*	0.092	*	*	74. 0
葉	御前崎市 白 砂	28年12月8日	中電	*	*	*	*	*	*	0. 15	*	*	83. 6
	浜松市	00 / 10 10 1	県	*	*	*	*	*	*	0.030	*	*	75. 0
	田 尻 (対照地点)	28年12月16日	中電	*	*	*	*	*	*	0. 039	*	*	84. 9

- 注1) 「*」は、「ND: 検出されず」を表す。
- 注 2) 40K は、自然放射性核種である。

① 海水 単位:mBq/L

採取地点名	採取年月日	測定機関	⁵⁴ Mn	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ Nb	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce
菊川河口	90年11日16日	県	* 1)	*	*	*	*	*	*	*
**************************************	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
高松沖	28年11月16日	県	*	*	*	*	*	*	2.7	*
田小石竹	26年11月10日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
尾高漁場	28年11月16日	県	*	*	*	*	*	*	*	*
产品可加加	20年11月10日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
中根礁	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	3. 1	*
知益於洪	90 F 11 F 10 F	県	*	*	*	*	*	*	*	*
御前崎港	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
浅根漁場	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
1,2号機 放水口付近	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
取水口付近	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
3号機及び4号機	90年11日10日	県	*	*	*	*	*	*	2.2	*
放水口付近	28年11月16日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*
5号機放水口付近	28年11月16日	県	*	*	*	*	*	*	*	*
0 分物 / / / / 日刊 / L	20 平 11 月 10 日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*

注1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

⑧ 海底土

単位: Bq/kg 乾土 ⁶⁰Co ⁹⁵Zr ^{9 5} N b ¹³⁷Cs ¹⁴⁴Ce ⁵⁹Fe ¹³⁴Cs 40 K²⁾ 採取地点名 採取年月日 測定機関 ^{5 4} M n * 1) 県 * * * * * * * 750 菊川河口 28年11月16日 中電 * 647 県 * * * * * * * * 670 高松沖 28年11月16日 中電 * * * 618 * 県 * * * * * * * * 600 尾高漁場 28年11月16日 中電 * * * * * * * * 559 中根礁 28年11月16日 中電 * * * * * 546 ** * 県 * * * * * 2.0 710 * * 御前崎港 28年11月16日 中電 2.0 660 * * * * * * *浅根漁場 28年11月16日 中電 * * * * * * * * 630 1,2 号機 28年11月16日 中電 ** * * ** ** 580 放水口付近 取水口付近 28年11月16日 中電 * 588 3号機及び4号機 県 * * * * * * * 610 28年11月16日 中電 放水口付近 * * * * * * * * 586 県 * * * * * * * * 590

注 1) 「*」は、「ND: 検出されず」を表す。

注 2) 40K は、自然放射性核種である。

5 号機放水口付近 28 年 11 月 16 日

⑨ 海産生物

9	海産生物								単	.位:E	3q/kg	生
試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	^{5 4} M n	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ N b	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	$^{40}{ m K}^{5)}$
しらす¹)	未採取	_	県	_	_	_	_	_	_	_	_	_
009	水泳坝		中電	_	_	_	_	_	_	_	_	_
 あじ ²⁾	未採取	_	県	—	_	_	_	_	_	_	—	—
<i>w</i>) <i>C</i>	水泳坝		中電	_	_	_	_	_	_	_	_	_
かさご ³⁾	未採取	_	県	—	_	_	_	_	_	_	—	—
7,-G C	小沐奴	_	中電	_	_	_	_	_	_	_	_	_
いせえび	御前埼	28年10月21日	県	* 4)	*	*	*	*	0.026	0. 10	*	148
V.67.0.	灯台下	20 平 10 万 21 日	中電	*	*	*	*	*	*	0.081	*	141

注1) 10月に採取予定だったが、漁の都合により1月採取となった。

注2) 11月に採取予定だったが、漁の都合により1月採取となった。

注3) 11月に採取予定だったが、不漁のため第3四半期内に採取できなかった。

中電

*

*

*

*

*

589

注 4) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

注 5) 40K は、自然放射性核種である。

⑩ 特定試料 (海岸砂)

単位	:	Bq/kg	乾十
	•	DG/ NS	441

採取地点名	採取年月日	測定機関	^{5 4} M n	⁵⁹ Fe	⁶⁰ Co	⁹⁵ Zr	⁹⁵ N b	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	¹⁴⁴ Ce	⁴⁰ K ²⁾
1,2 号機	28年10月20日	県	*1)	*	*	*	*	*	*	*	385
放水口付近	20年10月20日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	352
3 号機放水口付近	28年10月20日	県	*	*	*	*	*	*	*	*	314
3 为核风水口竹红	20 年 10 月 20 日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	273
4号機放水口付近	28年10月20日	県	*	*	*	*	*	*	*	*	273
4 分域以外口下过	20 年 10 月 20 日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	280
5 号機放水口付近	28年10月20日	県	*	*	*	*	*	*	*	*	337
0 分饭从外口门处	20 午 10 月 20 日	中電	*	*	*	*	*	*	*	*	282

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。 注 2) ⁴⁰K は、自然放射性核種である。

イ 放射化学分析 (ストロンチウム-90)

① 農畜産物

単位: Bq/kg 生 試料名 測定機関 測定値 採取地点名 採取年月日 $*^{1)}$ 県 御前崎市 平成 28 年 10 月 4 日 下朝比奈 中電 玄 米 牧之原市 平成 28 年 10 月 6 日 中雷 * 地頭方 県 * 菊川市 平成 28 年 10 月 3 日 原 乳 嶺田 中電 *

「*」は、「ND:検出されず」を表す。 注 1)

② 海産生物

② 海産生	上物			単位:Bq/kg 生
試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
しらす 1)	未採取	_	県	_
	/ 沐		中電	_
かさご ²⁾	未採取	_	県	_
N-6 C	/ 沐		中電	_
いせえび	御前埼灯台下	平成 28 年 10 月 21 日	県	* 3)
V Z .O.	14411141711111111111111111111111111111	十以 20 十 10 月 21 日	中電	*

- 10月に採取予定だったが、漁の都合により1月になった。
- 11月に採取予定だったが、不漁のため第3四半期内に採取できなかった。 注 2)
- 注 3) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

ウ トリチウム分析

① 大気中水分

採取地点名			測定値(Bq/L) (捕集水中トリチウム濃度)
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	* 1)	*
白砂	28年11月1日~28年11月30日	0.0031	0. 36
	28年12月1日~29年1月3日	0. 0012	0. 40
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	*	*
中町	28年11月1日~28年11月30日	0. 0053	0.66
Н ы	28年12月1日~29年1月3日	*	*
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	*	*
平場	28年11月1日~28年11月30日	*	*
十一場	28年12月1日~29年1月3日	0. 0028	0. 49
御前崎市	28年10月3日~28年10月31日	0. 0062	0. 48
上ノ原	28年11月1日~28年11月30日	0. 0050	0. 59
上ノ原	28年12月1日~29年1月3日	0. 0035	0. 62
静岡市	28年10月3日~28年10月31日	*	*
北安東	28年11月1日~28年11月30日	*	*
(対照地点)	28年12月1日~29年1月3日	0. 0015	0. 33

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

② 陸水

2	単位:Bq/L			
試料名	採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
L =1v	御前崎市 市役所	28年12月9日	県	* 1)
上水	(大井川広域水道)	28年12月9日	中電	0. 55

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

③ 海水

③ 海水			単位:Bq/L
採取地点名	採取年月日	測定機関	測定値
浅根漁場	28年11月16日	中電	0.61
1,2 号機 放水口付近	28年11月16日	中電	0.57
取水口付近	28年11月16日	中電	0.50
3 号機及び 4 号機	28年11月16日	県	* 1)
放水口付近	28年11月10日	中電	0.70
5 号機放水口付近	28年11月16日	県	*
3 夕陵以外日刊过	20 平 11 月 10 日	中電	0.47

注 1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。

付表-1 測定器

	測	定項目	測定機関	測定器	校正年月
宏		線量率	県	NaI (T1)型空間ガンマ線測定装置 日立アロカメディカル㈱製エネルギー特性補償型 (5 局は方向特定可能型)	28年6,7月
工間放射	空間放射線量積算線量		中電	NaI(T1)型空間ガンマ線測定装置 日立アロカメディカル㈱製エネルギー特性補償型	28年11,12月
線量		1本体 ú 目	県	蛍光ガラス線量計素子: AGC テクノグラス㈱製 SC-1 蛍光ガラス線量計読取装置: AGC テクノグラス㈱製 FGD251	28年8月
		槓昇級重	中電	蛍光ガラス線量計素子:AGC テクノグラス㈱製 SC-1 蛍光ガラス線量計読取装置:AGC テクノグラス㈱製 FGD201	28年2月
	全アルファ・全		県	ZnS(Ag)+プラスチックシンチレータ型アルファ線・ベータ線 同時測定装置:応用光研工業㈱製 S-2868SIZ	28年8月
	ベータ放射	ータ放射能比	中電	ZnS (Ag) + プラスチックシンチレータ型アルファ線・ベータ線 同時測定装置:日立アロカメディカル㈱製 ADC-2121	28年12月
環境試	環境試料中の放射能	ガンマ線放出核種	県	波高分析装置(検出器/波高分析器) キャンベラ製 GC4519/キャンベラ製 Lynx ユリシス製 GCW3523/キャンベラ製 Lynx キャンベラ製 GC4019/キャンベラ製 DSA-2000 キャンベラ製 GX4018/キャンベラ製 DSA-1000 キャンベラ製 GC4018/キャンベラ製 DSA-1000	28 年 9 月
				中電	波高分析装置 (検出器/波高分析器) セイコーEG&G GEM-40-83/セイコーEG&G MCA-7600 セイコーEG&G GEM-40-83/セイコーEG&G MCA-7600 セイコーEG&G GEM-40-S/セイコーEG&G MCA-7600
		ストロンチ ウムー90	ストロンチ	低バックグラウンドガスフロー測定装置 日立アロカメディカル㈱製 LBC-4312	28年7月
			中電	低バックグラウンドガスフロー測定装置 日立アロカメディカル㈱製 LBC-4302B	28年6月
		 L II 壬 占)	県	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置 日立アロカメディカル㈱製 LSC-LB5	28年7月
		トリチウム	中電	低バックグラウンド液体シンチレーション測定装置 日立アロカメディカル㈱製 LSC-LB5	28年12月

付表-2 日本における環境試料中のカリウム-40のレベル

試料名	レベル	単 位
陸水	15~140	mBq/L
陸土	96~1300	Bq/kg 土
キャベツ	44~85	Bq/kg 生
大根	59~130	Bq/kg 生
茶葉	130~160	Bq/kg 生
牛乳	44~63	Bq/L
松葉	44~93	Bq/kg 生
海底土	110~1200	Bq/kg 乾土
むらさきいがい	41~78	Bq/kg 生
わかめ	110~270	Bq/kg 生

出展:日本分析センター広報 (No. 15 1988.6)

(昭和57~59年度放射能分析確認調査データより)

Ⅱ 東京電力㈱福島第一原子力発電所事故及び核爆発実験等の影響について

平成28年度第3四半期の浜岡原子力発電所周辺環境放射能調査では、浜岡原子力発電所からの環境への影響は認められなかったが、東京電力㈱福島第一原子力発電所事故等の影響が確認されたため、「平成28年度環境放射能調査結果の評価方法」等に準じて、下記のとおり外部被ばくによる実効線量及び内部被ばくによる預託実効線量を推定し、影響を評価した。

記

1 外部被ばくによる実効線量

従来から、積算線量の平常の変動幅の上限超過量を人工放射線寄与分と見なし、 実効線量を推定することとしている。

積算線量の測定結果は、第1四半期及び第2四半期は平常の変動幅の範囲内であったが、第3四半期は最大で0.01mGy/90日の超過があった。

超過した原因は自然変動と考えられるが、従来どおりの方法で安全側に評価することとし、第4四半期は第3四半期の状況が継続するものと仮定する。

その結果、平成 28 年度の実効線量は、約 0.02 mSv/年(建屋による線量の低減を考慮した場合*は約 0.01 mSv/年)であった。

※ 1日のうちの8時間を屋外(低減係数1)で、16時間を平屋又は2階建ての 木造家屋(低減係数 0.4)で過ごした場合を仮定し、より現実的な実効線量を 推定した。

2 内部被ばくによる預託実効線量

第3四半期までに採取した試料の放射能が、それ以降年度末まで継続するものと し、内部被ばくによる預託実効線量が最大となるよう試料を選定した。

預託実効線量の計算に用いた試料の測定値を表1に示し、試料ごとの線量推定値 を表2に示した。

その結果、平成 28 年 4 月を起点とした 1 年間の預託実効線量は約 0.00031mSv/年であった。

なお、東電事故以前との比較のために、図1に1976~2016年度の年間線量の時系列変化を示した。

3 線量の推定及び影響の評価

平成 28 年度の外部被ばくによる実効線量及び内部被ばくによる預託実効線量について、第 3 四半期までの測定結果から推定したところ、約 0.02mSv/年(建屋による線量の低減を考慮した場合は約 0.01mSv/年)であり、公衆の年線量限度 1mSv 又は自然放射線による線量(日本平均)2.1mSv と比較して十分に低いレベルであり、健康への影響は心配ないレベルである。

表1 線量評価の対象とした試料と測定値

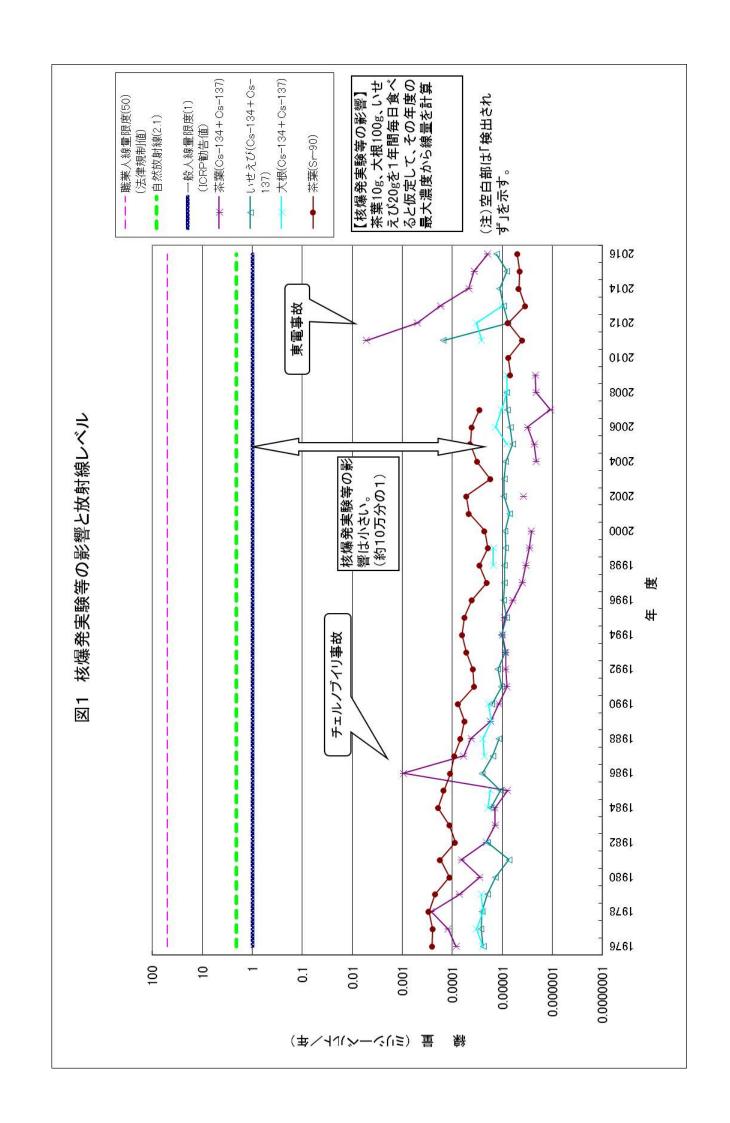
試料名	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	$^{131}{ m I}$	90Sr	単位	備考
	* 1)	*	2)	_	mBq/m^3	白砂 MS H28 年 4 月
	*	0.038	<u>—</u>	-	IJ	平場 MS H28 年 5 月
	*	*	_	—	IJ	白砂 MS H28年6月
	*	*	<u>—</u>	-	IJ	白砂 MS H28年7月
浮遊塵	*	*	_	-	IJ	白砂 MS H28年8月
	*	*	<u>—</u>	-	IJ	白砂 MS H28年9月
	*	0.011			IJ	平場 MS H28 年 10 月
	*	*		_	IJ	白砂 MS H28年11月
	*	*	-		IJ	白砂 MS H28年12月
みかん	0.0071	0.050	_	_	Bq/kg 生	御前崎市上ノ原 H28 年 11 月
茶葉	0.063	0.32	_	*	"	御前崎市法ノ沢 H28 年 5 月
	*	0.031	*	* ³⁾	"	掛川市下土方 H28 年 4 月
原乳	*	*	*	*	IJ	菊川市嶺田 H28 年 7 月
	*	0.033	*	*	IJ	掛川市下土方 H28 年 10 月
あじ	*	0. 23	_	_	11	相良沖 H28 年 4 月
いせえび	0.026	0.10	_	*]]	御前埼灯台下 H28 年 10 月

- 注1) 「*」は、「ND:検出されず」を表す。
- 注2) 「一」は測定対象外核種を示す。
- 注3) 原乳のヨウ素-131 の単位は Bq/L である。

表2 大気吸引及び食物摂取による年間線量推定値

表 2 大気	吸引及び食物	(単位:mSv/年)			
試料名	¹³⁴ Cs	¹³⁷ Cs	$^{131}\mathrm{I}$	90Sr	吸引量又は摂取量1)
浮遊塵	* 2)	0.0000013	3)	_	22.2m³/日
みかん	0. 0000049	0.000024	_	_	100g/日
茶葉	0.0000044	0.000015	_	*	10g/日 ⁴⁾
原 乳	*	0.000023	*	*	0. 2L/日 ⁵⁾
あじ	*	0.00022	_	*	200g/日
いせえび	0.0000036	0.0000095	_	*	20g/日

- 吸引量又は摂取量は、成人が摂取する量とし、旧原子力安全委員会の「環境放射線モ 注1) ニタリング指針」(平成20年3月)などから引用した。 「*」は、検出されなかったため、評価の算定から除外した。
- 注2)
- 注3) 「一」は、測定対象外の核種であるため、評価の算定から除外した。
- 注4) 製茶の摂取量を1日2gとし、製茶1gあたりに使用する生葉を5gとしたため、生葉 換算で1日あたり 10g とした。また、お湯による放射性物質の抽出率は 100%と仮定 した。なお、製茶の摂取量は、総務省「家計調査年報 (H21 年度)」から、静岡市の 1世帯あたりの購入数量を、世帯人数で割って求めた。
- 原乳中の放射性セシウム及び放射性ストロンチウムによる預託実効線量を求めるた 注5) めに、摂取量 0.2L/日を 0.2kg/日として用いた。



平成28年第3四半期分(10月~12月)の浜岡原子力発電所周辺の積算線量を測定した結果、浜岡原子力発電所周辺57地点中2地点で平常の変動幅の上限を超過した。

調査の結果、平常の変動幅の上限を超過した原因は、浜岡原子力発電所からの人工放射性核種の影響ではなく、自然変動(自然放射性核種の変動)の影響によるものと推定した。

1 測定結果

表1及び図1に示す2地点において、平常の変動幅の上限を超過した。

ポイン ト 番号	測定地点名	測定機関	測定値 (90 日換算値)	平常の変動幅 (90 日換算値)
8 薄原前	中部電力株式会社	0.15 mGy[0.145mGy]	$0.13 \sim 0.14 \text{ mGy}$	
8 薄原前		監視センター		
10	芹沢	中部電力株式会社	0.15 mGy[0.147mGy]	$0.13 \sim 0.14 \; \mathrm{mGy}$

表1 積算線量の平常の変動幅の上限超過状況

測定期間:平成28年9月14日~平成28年12月14日(92日間)

2 調査結果

(1) 自然放射性核種の影響

① 積算線量の推移

「薄原前」と「芹沢」の積算線量の上限超過の状況を把握するため、浜岡原子力発電所周辺57地点の積算線量の推移を確認した。そのうち、「薄原前」と「芹沢」の2地点の積算線量は、東電事故後、平常の変動幅の上限を超過したが、平成26年第2四半期以降、平常の変動幅内に下がったものの、上限値付近で推移していた。

このことから、変動幅の上限を超過し易い状況下にあり、自然変動の影響により平常の変動幅の上限を超過した可能性が考えられる。図2に「薄原前」と「芹沢」の2地点と、その付近の測定地点の積算線量の推移を示す。

② 空間放射線量の長期評価値 (3ヶ月平均値)の動向

白羽小学校モニタリングステーション(以下「白羽MS」という。)で測定した当該四半期と平成26年度第1四半期~平成28年度第2四半期までの長期評価値(3ヶ月平均値)を確認した結果、当該四半期と同程度であった。

なお、空間放射線量は、一般的に、秋~冬に高く、春~夏に低くなる季節変動が生じる。その季節変動は、白羽MSでもみられていた。

③ 気象状況

薄原前および芹沢付近の気象について、気象庁の御前崎観測所の気象データ (気温、風速など)を当該四半期と過去2年間分の第3四半期を比較した結果、 当該四半期と同程度であった。

④ 蛍光ガラス線量計設置地点の状況

蛍光ガラス線量計の交換時に目視で確認している現地の周辺環境について、変化は認められなかった。

(2) 人工放射性核種の影響

浜岡原子力発電所内の放出監視モニタ等の測定結果から、浜岡原子力発電所からの放射性核種の放出は確認されていない。

平常の変動幅を上限超過した地点に近い白羽MSの浮遊塵におけるガンマ線放出核種測定の結果、人工放射性物質は検出されていない。また、白羽MSで測定したダストの全アルファ・全ベータ放射能比の結果でも、特異な変動はなかった。このことから、浜岡原子力発電所からの人工放射性核種の影響ではないと考える。

(3) 測定系の健全性

蛍光ガラス線量計読取装置は、平成28年2月に定期点検を実施しており、異常がないことを確認した。線量の読取前には同装置の使用前確認を行い、異常のないことを確認した。

また、蛍光ガラス線量計は、平成28年9月に定期点検を実施しており、異常がないことを確認した。線量の読取前後には目視による外観確認を行い、異常がないことを確認した。このことから、測定系の健全性は確保できていると考える。

なお、測定系の健全性は、測定器の管理基準内(蛍光ガラス線量計読取装置は 読取値の再現性±5%以内、蛍光ガラス線量計は照射線量平均値±10%以内など) であることを定期点検で確認している。

(4) 測定処理の適切性

測定結果の算出については、入念に再チェックを行い、測定結果に問題がないことを確認した。このことから、測定処理は適切であったと考える。

3 評価結果

平常の変動幅の上限を超過した原因は、浜岡原子力発電所からの人工放射性核種の 影響ではなく、自然変動(自然放射性核種の変動)の影響によるものと推定した。